

ヨミタン大学読谷学部 一般公開講座

比嘉秀平主席の生きた時代 ～島ぐるみ闘争の激動の中で～

比嘉秀平主席は1901（明治34）年生まれで読谷村字大木出身です。戦前は教職者として、戦後は語学力から政界へ入り、昭和27年には琉球政府初代行政主席となりました。

米国民政府の下の地元の陣頭指揮官で、当時沖縄を大騒然とさせた軍用地問題に心労を重ね、昭和31年の在任中の55歳の若さで、基地問題を抱えたまま急死しました。

秀平は幼い頃、さとうきびをしぼる作業中に事故にあい右腕を失いました。ハンディを背負っていましたが、卑屈にならず堂々と前向きに生き、とても心優しい人柄でした。

秀平主席が苦悩していた時のエピソードとして、主席室にふいに盲聾啞学校の子どもたちが肖像画や手細工をみやげに訪れ、不自由な口先や点字で「しっかりがんばって下さい」と激励を受けた際には、さすがの秀平主席もついにハンカチを目にあてて、言葉につまったそうです。子どもらが帰った後しばらくの間、ひとりで執務室にこもり、この子らや県民のためにも頑張る決意をしたようです。

当時の米国民政府の絶対的権力の下にあった比嘉主席の生きた激動の時代について学び、彼が見据えた将来の沖縄はどのようなものだったのかを探り、これからの読谷村について考えてみたい。

講師：大城将保（おおしろまさやす）先生

講師プロフィール：1937年玉城村生まれ。沖縄県史や大宜味村史など沖縄戦の戦時記録や県立平和祈念資料館の展示に関わる。筆名：嶋津与志 歴史書から小説、脚本まで著作が多い。主なものに「観光コースでない沖縄」や小説「かんからさんしん物語」、戯曲「洞窟（ガマ）」などがある。

日時：平成24年7月4日（水）

夜7時～8時30分

場所：大木公民館 申し込み不要（無料）

主催：読谷村役場（企画財政課：電話 982-9205）